

冬の使者 到来

森の木々が色付きやがて落葉する頃、林泉の池に冬の使者がやってきます。コガモです。日本に飛来する最小の淡水ガモとして知られています。

頭が茶色で、目の周りから首の後ろまで緑色でカラフルなのがオス、全体的に茶褐色なのがメスです。早春から晩秋までは北半球北部の気温の低い地域で過ごしていますが、いよいよ冬が深まる頃、日本に飛来して越冬します。そして暖かくなるとまた北へ帰って行きます。コガモたちは、気温が低過ぎて全面氷結してしまう池や湖にはやって来ません。陶史の森の林泉の池は寒い朝に一部うっすら氷が張る程度なので、彼らが越冬するのに適しているようです。コガモは、この時期に番つがいが形成されます。オスは、お尻の黄色い模様を目立たせるなどさまざまな方法でメスに求愛をアピールをします。

自然豊かな陶史の森ですが、よく散策を楽しむ人たちから、「以前は池に来る鳥がもっと多かった…鳥だけじゃなく、昆虫も草花も数も種類も減ってしまった」と聞きました。多くの野生生物にとって居心地の良い自然環境をみんなで守っていきましょう。



森	の
日	記

鳴く虫教室 10月14日(日)

抜けるような秋空の下、タモや虫籠を持った子どもたちが元気にコオロギやバッタ、トンボを追い掛け、捕まえた昆虫の名前や飼ひ方のコツを昆虫博士から教えてもらいました。



きのこ教室 10月21日(日)



出発前に「柄が縦に割けるキノコは食べられる」「ナスと煮るとあたらぬ」などが迷信であることなどを学び、キノコ狩りへ出掛けました。採ってきたキノコを持ち寄り、名前や毒がないかなど、キノコに詳しい先生たちから一つ一つ教わりました。

教室のご案内

12月

バードウォッチング(自由参加)
12月23日(日・祝) 9:00~11:30
冬の野鳥を観察(雨天中止)

1月

バードウォッチング(自由参加)
1月27日(日) 9:00~11:30
真冬の野鳥を観察(雨天中止)

●この時期は冬鳥の渡りを見ることができます。10月中旬には、3カップルのカイツブリが林泉の池でくつろいでいました。そのほかジョウビタキやメジロ、ホオジロ、カワセミなどの目撃情報が多数ありました。

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や図鑑を無料で貸し出しています。気軽にご参加ください。

休園のお知らせ

12月29日(土)~平成25年1月3日(木)は休園します。

